

# オクラの栽培法

## 特性と種まき

オクラは硬実種子です。そのまま蒔いても芽が出にくいので①種子に傷をつけて②半日ほど吸水させてから種まきします。吸水しただけではなかなか種皮が破けませんので、少量なら爪切りでへソではない所にカリッと白い部分が見える位に傷をつけます。大量なら、荒めの砂で軽く揉んでやると全体にうすく傷をつけることができます。吸水時間はあまり長くならぬように。オクラは低温で非常に発芽しにくく、また発芽しても寒風に曝されると萎れてしまいます。藤の花が咲きだす時が種まきの適期です。オクラは非常に移植を嫌います。野菜苗を販売しててもっとも活着が悪いのがオクラです。できるだけ移植せず直に蒔きましょう。一ヶ所に最低5~6粒蒔きます。やむなく移植栽培をするときは9cmポットに同じく5~6粒蒔いて、間引かずに早めに定植し活着を確認します。

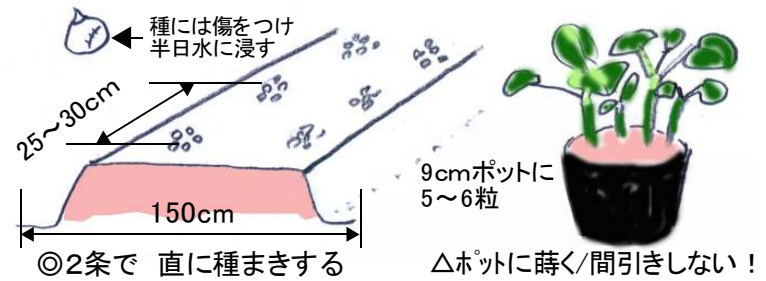
## 畑の準備と間引き

毎年連続というわけには行きませんが、オクラはそこそこ連作できます。あまり畑は選びませんが、準備として、1㎡あたり、堆肥2Kg以上、苦土石灰150~200g、8:8:8の配合肥料で150g程度を元肥として全層に施肥します。畝幅1.5mで整地し、株間は25~35cmとします。発芽後、本葉1.5枚~2枚くらいに大きくなったら、2~3本に間引きます(図は2本仕立て)。このとき無造作に引っっこ抜かぬように。必ずハサミなどで切り取るように間引きしてください。(とうもろこしやオクラは間引きの際に株が傷みやすいので特に注意！)

## 管理と収穫

発芽後約1.5ヶ月一番花が開花します。朝咲いて午後にはしぼみます。一番花が結実したら第一回目の追肥です。その後半月~3週間間隔で少量ずつ追肥します。8:8:8で50g

2011/10/15  
市川種苗店 org.



くらいが適当です。開花後5日位で、とり遅れないうちに収穫します。最下段の実の下2枚より下の葉はすべて取り除きます。花は上方向にしか付かず、その実の肥大に寄与するには下2枚ぐらいなのです。それ以下は養分を浪費するだけなので、エネルギーを成長点に集中させるため必要なオクラ特有の整枝法なのです。また、30cm株間の二本仕立てなら強い側枝1~2本は伸ばしてもよいでしょう。

## イボ果と品種

温度が低いと虫に刺されたようなイボイボが果実の表面に発生する場合がありますが、病気ではありません。品種依存します。また、角がなく大きくなっても硬くなりにくいエメラルドオクラ。濃緑で節間が短い品種。白色や六角のオクラ等もあります。

※一部又は全部の引用を禁止いたします

